

「災害への備え」

すなだ みの
愛媛県 愛南町立城辺小学校 5年 砂田 美乃

最近、天候の異常や地しん、土砂災害のニュースをよく耳にします。私が住んでいる愛南町でも近い将来南海トラフ巨大地震による大きな被害が予想されています。4月の熊本地しんが起きた時は、実際にけい報も体験しました。ひ難訓練は、学校で何度も練習していますが、本当にけい報が鳴ると、心ぞうがドキドキして練習の時のように体が動かないことが分かりました。特に、真夜中にけい報が鳴った時は、頭の中が真っ白になって、パニックを起こしてしまいました。

このように、これまでの私の災害のイメージは、地しんのことばかりでした。

「雨の音やふり方、川の流れを意識したことはありますか。」

「大雨の時の山や土のにおいを気にしたことがありますか。」

校長先生の問いかけに、何も答えられませんでした。しかし、今年7月に、砂防学習会に参加して初めて、土砂災害について深く考えることができました。スリーディーシアターでは、石が飛んでくる映像、大雨が降った時の音の変化、木や土のにおいなど、すごくリアルに体験することができました。この学習会を通して、テレビのニュースで見たことのある土砂災害の映像と、学習内容とが結び付き、自然災害への備えの大切さを改めて感じました。

私の父は、役場に勤めています。母は、看護師をしています。実際に災害が起きると、二人とも職場にかけつけられないといけません。ずっと帰れないことも考えられます。つまり、私と妹の二人でひ難しなければならぬかもしれないのです。そこで、いつけい報が鳴っても落ち着いてひ難ができるように、自分が心がけていることと、考えていることをしょうかいします。

一つ目は、ひ難けい路やひ難場所を家族で確かめることです。愛南町が作成しているひ難地図を使って、ひ難場所の確認をしました。私の住んでいる所から一番近いひ難場所は、城辺小学校でした。

二つ目は、ひ難用具を点検することです。いつでも、くつをはいて逃げるように、まくら元に置いています。リュックの中には、非常食や水、けい帯電話、かい中電灯、ラジオ、救急セットを入れています。それを、妹と実際に背負って重さの確認もしました。意外と重たかったです。消費期限もあるので、時々中身をチェックしながら、これからも準備しておきたいと思います。

三つ目は、ひ難訓練をくり返し行うことです。学校のひ難訓練だけでなく、地域で行われているひ難訓練に積極的に参加したいと思います。そうすることで、父や母がいなくても、自分で自分の命が守れるようになると思います。

四つ目は、だれもが使える防災マップを作ることです。私たちのグループは、災害が起きた時に、安全な場所と役に立つものがどこにあるのかを地図に表しています。災害が起きた時、すぐに助けが来るとはかぎりません。助けてもらうのを待つだけでなく、自分の命は自分で守るということをイメージしながら、フィールドワークを行っています。地域の人へのインタビューから、昔の水害についても知りました。学校近くの田、畑、家までもが水につかったというのです。その原因は、大雨のために川のてい防がこわれ、土石流となって地域に流れ込んだのだそうです。過去の災害や危険か所、ひ難経路、安全な場所などが一目でわかる地図にしたいと思っています。

どんな災害であれ、大切なことは、「自分の命は自分で守る」「にげるが勝ち」ということだと学びました。私たちの学びを、地域にも広げ、地域全体の自助、共助に役立つことができるよう、これからもしっかりと学んでいきたいと思っています。